



抜群の安定感で、 メダルは射程距離

● 芦渡

翔（あしわたり・かける）

身長170^キ、体重80^キ

努

力家という言葉がぴったりの芦渡翔君。「翔はいつも黙々と練習こなしています。わたしが教えた中でも1番か2番です」と、吉田監督は自分に厳しく日々努力を続ける彼の姿勢を高く評価する。

1年時、県新人大会77^キ級でトータル185^キで初の2位。2年時のインターハイで19位、今年の3月には85^キ級で全国4位と着実に実力を付けている。

一方、吉田監督は「われわれの競技は、けがで突然ダメになるときもあります」と付け加えた。

芦渡君は去年の11月、練習中に右手首を故障した。故障は意外に長引き実践的な練習ができなかった。その分、彼はひたすらスクワットなど基礎練習を繰り返した。

3年になった今年6月、東北高校選手権が青森県平川市平賀総合運動施設体育館で行われ、各県大会で勝ち抜いた選手らが成果を競った。大会での自身の記録はスナッチ110^キ、ジャーク146^キ、トータル256^キ。見事大会新を記録し栄光をつかんだ。故障を克服してうれしい東北のタイトルだった。

東北大会では、「他県の選手も応援してくれたことがうれしかった」と芦渡君は言った。彼にとつて東北大会は6回の試技を成功させ自己新記録で優勝できたこと、そして何より同じ志を持つ仲間との「出会い」という財産も収穫した大会だった。

8月には大舞台の「大阪インターハイ」（全国高等学校総合体育大会）が目の前に迫っている。大会に向け彼は「全国の中に入ったとき、自分はまだまだ（体が）小さい方なので、筋トレ、スクワット、デットリフトをして体を大きくして大会に臨みたいです」と静かに話す。これからは暑さ対策も課題の一つだ。

「去年のインターハイから安定感が出て、試合度胸も付きました。最近は何年かぶりに緊張感を持って試合をしています」と笑みを浮かべる吉田監督。そして、これまで全国レベルの選手を育ててきた吉田監督を緊張させるほどに実力を身に付けた芦渡翔。

真夏の大阪で8月5日から8日まで行われる「大阪インターハイ」。二人の中にはメダルが射程距離に入っている。